

A topographic map showing contour lines and a red path. The path starts at the top left, goes down a slope, then follows a ridge line. A dashed red line with arrows and a question mark indicates a detour. A yellow box at the top right explains the situation. Another yellow box at the bottom left describes the reason for the detour. A yellow box in the middle right points to a specific peak.

目的の山は稜線上にあり、歩いている道は下っていく。「これは違うな？」と思い引き返したところ目的のルートがあった。

大垓山

急な斜面でおかしい  
と思い引き返す



この鉄塔の先の道を右(南)に進んで、尾根を降りている時に「こんな方向に、こんな降りるかな？」と違和感を感じました。地図を見ると、ルートは大袋山（おおぬたやま）へ向かう道は緩やか。こりゃ違うな！鉄塔の近くまで戻ってみると、東へ向かう道がありました。

南方向への道の方がハッキリしていたので、なんの迷いもなく進んでしまいましたが、たぶん作業道ですね。危ない危ない…汗（HP参照）

地図の先読みができていたからこそ「あれっ？おかしい？」と思ったときの次の行動が適正にできた。またおかしいと思った根拠も適正で正しい判断の「来た道に戻る」という行動にもつながっている。

戻るのがめんどくさいと思った場合や夕暮れ近くで焦った気持では、「このまま進んでも沢に道があるはずだ！」という判断をして更に下ってしまうかもしれない。地図をよく見ると尾根の末端は等高線が狭くなっており尾根の斜面が急なことが分かる。急な斜面では落ち葉等でスリップして滑落する危険も想像できる。

「あれっ？おかしい？」と思った時が「道迷い」と「遭難」のターニングポイントと思ってほしい。そして「根拠なく進む行動」が遭難に繋がっている。安全登山を心がけてほしい。